

平成28年度第2回 川崎市社会教育委員会 青少年科学館専門部会 次第

日時 平成28年 11月2日(水) 午前10時～12時

会場 かわさき宙と緑の科学館(川崎市青少年科学館) 自然学習棟 2階 学習室3

1 開会

会議の公開について 次第説明・資料確認

2 館長挨拶

3 (議事1) 平成27年度事業評価について **資料1** **資料2**

(1) 各委員からの評価コメントについて

(2) 総合評価、公開版(案)の作成について

- ・事務局より各事業の各委員による評価コメントについて説明
- ・事務局より公開版(案)の各事業の総合評価値、評価コメントについて説明 (質疑応答)

4 (議事2) 平成28年度事業実施状況について **資料3**

- ・9月末までの主な実施状況、今後の予定について各分野担当より説明
- ・配布チラシ、パンフレット等について各分野担当より説明 (質疑応答)

5 その他

(1) 第3回専門部会(事業視察)の希望調査について **資料4**

- ・展示、プラネタリウム投影、天体観測、各種観察会・体験教室等の現地視察・解説
- ・事業視察・解説日程を提示し、希望調査を依頼(後日メールでご返送いただく)
- ・実施期間は11月中旬～12月中旬を予定

(2) その他

6 閉会

【資料】

- ・資料1: 「平成27年度 事業評価表」(自己評価入り)
- ・資料2: 「平成27年度 事業評価表」(各委員コメント一覧、総合評価、公開版(案)入り)
- ・資料3: 「平成28年度 事業実施状況(9月末現在)」
- ・資料4: 「事業視察希望調査表」
- ・その他配布物: 科学館だより、事業・イベントチラシ類
- ・関連資料ファイル: 運営基本計画、関係法令・要綱等(会議終了後回収)

平成28年度第2回川崎市青少年科学館専門部会摘録

日 時 平成28年11月2日(水) 10:00~12:00

会 場 かわさき宙と緑の科学館(川崎市青少年科学館) 自然学習棟2階 学習室3

出席者(敬称略)

- (1) 委員 (社会教育) 岩切貴乃 (公募市民) 渡邊敬三、服部公俊
(学識経験者) 山上明、瀬能宏、松島義章 (教育職員) 三上勉
(家庭教育) 眞壁総子
出席委員: 8名
欠席委員: 2名(教育職員) 上杉岳哲 (学識経験者) 洞口俊博
- (2) 事務局 島田館長、大泉、川島、弘田、小鍛冶(生田緑地運営共同事業体)、竹下(司会進行)
- (3) 傍聴者 0人

1 開会

事務局より、開会告知、傍聴者受入(定員5名)、記録(録音及び筆記)作成及び会議記録公開について周知

2 館長挨拶

- 各委員には平成27年度事業評価作業をお願いしているが、今年度から委嘱した委員の皆様には、当館の施設・事業の詳細について説明し、ご理解いただく前に昨年度の評価をお願いすることとなってしまう、ご苦勞をおかけしている。今後は十分な説明や視察を行ったうえで、年度終了後に速やかに評価をいただくよう検討したい。
- うれしいお知らせを一つ。当館のプラネタリウム投影「星空ゆうゆう散歩」で星空解説をお願いしている河原郁夫さんが、川崎市市民文化賞を受賞されることになった。河原氏は五島プラネタリウム、神奈川県立青少年センターに長く勤められた。今年で86歳、星空解説を始められて60年目を迎える節目の年に受賞されることとなった。
- 今回の専門部会では、平成27年度事業評価取りまとめの審議をお願いしたい。また、今年度上半期の事業実施状況を報告し、ご意見をいただきたい。

以下、渡邊部会長が議事進行

3 議事1 平成27年度事業評価について

部会長 平成27年度事業評価について、事務局より説明をお願いしたい。

- 事業ごとに各委員の評価コメント、総合評価値(A~D)について説明
- 各委員の評価を踏まえた事業評価公開版の取りまとめについて説明、質疑応答
資料: 資料1「事業評価表(自己評価入り)」、資料2「事業評価表(公開版案)」

【質疑応答】

（1 展示事業）

委員 小学生向けの緑地内地層見学が行われているが、一般の人たちも見学できるよう、現地に表示等があるとよいと思う。

委員 委員の評価にAからDまでばらつきが大きい事業がある。なぜ評価が分かれているのか確認が必要ではないか。（自己評価の）達成度5～1を踏まえ、を計画どおり「やった」はC評価とし、そこに工夫等が加わるとA、Bとなるのか、あるいは「やった」はAなのか、共通認識が必要と思われる。

部会長 事業評価資料の表紙にある評価区分A～Dについての説明を基準に、各委員ご専門の立場から評価してもらい、その評価の理由についてはこの場で議論してほしい。外部評価についてはいろいろな方法があるが、ここでは各委員の評価について確認のうえ平均値を総合評価としたい。

委員 「(3) 科学展示」の自分のコメントにある「作品の評価」とは、ランク付けではなく、作者に対して学芸員がアドバイスするという意味。県立生命の星・地球博物館では実施しており、作品の良いところ、工夫すべきところを助言することで、出品者のインセンティブの確保も図られると考える。公開版案では削除されているが、趣旨を確認のうえ問題なければ入れてほしい。

（2 展示事業）

委員 「(2) 天文体験」のアストロテラス（屋上天体観測施設）の利用者減の理由として天候が挙げられているが、予定回数に対する実際の実施回数、悪天による中止回数を示すとよいのではないか。

事務局 「年報」では、年間の利用者数しか記載していないので、今後は実施回数データも追加したい。なお、実施した場合には毎回100名程度の参加者がある。

（3 調査研究事業）

特に意見なし

（4 収集保存事業）

部会長 外部評価では、評価対象の事業を担う職員の負担がどの程度なのか、職員にヒアリングして調査することもある。また、予算措置が適切かどうかという視点で評価し、評価を予算措置に活用することもできる。科学館はこのような評価手法ではないが、評価結果をどう活用するかが重要である。

委員 「(3) 科学教育に関する資料の収集と保存・管理」についての事務局コメントで「実験教室等の実績報告書のデータの蓄積・共有の推進が資料収集の中心となる」とあるが、これは科学における「調査研究」そのものであり、その成果が論文や報告書として出ていくものである。この調査研究に使われた資料が科学教育の資料といえる。「3 調査研究事業」の記載と併せて誤解があるのではないか。

事務局 科学教育に関する資料収集、保存・管理については、中長期目標に基づき年度実績や自己評価を作成しているが、ご指摘を踏まえ記載方法を検討したい。

委員 科学教育で対象となる資料が何なのか明確にするとともに、その資料が使用されて調査研究が行われ、成果として出ていくという流れが理想的。目標や計画をそのような形にする必要がある。

(5 ネットワーク事業)

委員 ネットワーク事業に限らないが、評価にあたり、館においてどの事業にどんな職員がどの程度関わっているのか。自分の所属する県立生命の星・地球博物館に比べて、科学館は業務の負担が重い印象である。バランスに配慮した人員配置が必要であり、それがわかる資料があるとよい。

事務局 第1回専門部会の後に、館の組織・職員配置図を参考資料として各員にお送りしたところだが、今回も再度提示すべきだった。来年度以降の評価の際には参考資料とし準備したい。

(6 管理運営)

委員 「(5) 進行管理」の自分のコメントにおいて、調査研究事業の客観的評価数値として「論文数」としているが、いろいろなレベルのものがあるので、公開版では「学術的著作物数」に修正してほしい。

委員 「多様な利用者への配慮」について、自分は日本民家園でもボランティアをしているが、年々外国人来園者が増えている。民家園から科学館へ流れてくる外国人も多いと思われるので、外国語パンフレットなどの対応も必要と思われる。

委員 イベントなどで川崎市から館に集客を求められることはあるのか。

館長 集客を求められることはないが、市として外国人に向けた生田緑地の魅力発信、情報提供等を推進しており、プラネタリウムメガスターⅢなどの発信のチャンスととらえている。

(全体の評価について)

部会長 「1 展示事業」から「6 管理運営」まで、全ての事業・項目について総合評価（A～D）を確定し、公表版コメントの整理を行った。外部評価にはいろいろあり、厳しいものもあるが、この専門部会の科学館の評価については、職員ヒアリングや委員による会議もない。限られた資料・時間の中での評価となり、作業に苦慮している委員もいると思う。外部評価としては公開を前提としたゆるやかな評価としてその活用方法も館の判断に委ねられるものとなっている。

評価の位置づけが不明確な点もあるが、委員・事務局ともなるべく負担とならない作業とし、評価結果を事業展開や予算措置等に活用していくという方向でよいと考えている。

各委員から、評価全体についてご意見があればお願いしたい。

委員 館の自己評価と達成度を踏まえて評価する形をとっているが、自己認識がされない限り、課題や問題点が挙がってこないという問題がある。直接ヒアリング等により補足することが望ましいが、時間的制約もある。例えば事前に委員から「こういう視点を入れてほしい」「こうしたことを記載に加えてほしい」といった事項を伝え、それに対する自己評価を行うことにより、評価しやすくなるとともに、事業の充実につながると考える。

部会長 生田緑地内の日本民家園、岡本太郎美術館にも「専門部会」が存在する。それぞれどのような評価を行っているのか気になるところである。

館長 以前の各館ごとの協議会が専門部会という形となった。生田緑地内の隣接する博物館3館として、評価方法・スケジュール等についての情報共有を検討している段階である。専門部会という名前になったが、基本的にはそれぞれ館の性格に合わせた評価を協議会から継続して行っている。

部会長 評価にあたり、委員、事務局とも作業にかなりの労力をかけている。この評価が事業運営に十分に活かされることが重要である。

委員 各委員の評価において、評価区分A～Dの表記のみでコメントがないものがある。コメントがないと評価の理由がわからないので、できるだけ評価の理由を明らかにするためにコメントは入れるべきと考える。

4 議事2 平成28年度事業実施状況について

部会長 平成28年度上半期の事業実施状況について、事務局より説明をお願いしたい。

● 9月末までの平成28年度上半期の事業実施状況について各分野担当より説明

展示事業、教育普及事業、調査研究事業、収集保存事業、ネットワーク事業、管理運営について、自然、天文、科学の各分野の担当より説明

資料： 資料3「平成28年度事業実施状況（9月末現在）」

【質疑応答】

特になし

5 その他 第3回専門部会（事業視察）の希望調査について

● 展示、収蔵庫、プラネタリウム投影、天体観測、各種観察会・体験教室等の現地視察・職員解説を、11月中旬から12月中旬にかけて行う旨、事務局より説明。各委員に希望する視察内容、日時を調査表に記載のうえ提出していただき、事務局で調整のうえ事業視察を行う。調査表の後日提出を依頼。

【質疑応答】

委員 プラネタリウムや教育普及事業は開催日時が決まっているが、展示や収蔵庫などは会議の日に併せて見学することも可能。7月に開催された第1専門部会の後、みんなで収蔵庫などを見学してもよかった。評価作業の前に視察の機会を設けるのが理想的である。来年度以降検討してほしい。

事務局 特に新しい委員の皆様のためにも、館運営、各種事業の実施状況について把握するための事業視察、必要な情報提供を行ったうえで、評価をお願いすべきと思われる。望ましい評価時期・スケジュールについて検討していきたい。

6 閉会

部会長より閉会告知